

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 8 月 30 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻博士課程 3 回
氏名	横塚 彩

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ・国際霊長類学会大会
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
大型類人猿ボノボに対する住民意識の多義化
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 8 月 20 日～平成 28 年 8 月 29 日
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
国際霊長類学会
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>アメリカ合衆国イリノイ州シカゴで開催された国際霊長類学会大会に参加させていただいた。</p> <p>この学会大会への参加の目的は、修士までの研究をもとにした口頭発表を行うこと、世界各地で行なわれている霊長類保全に関する研究や活動について、知識を得ることであった。</p> <p>2014年の国際霊長類学会大会にも参加させていただいたが、その時はまだ現地調査を開始する前だったので、どの範囲に自分の興味や研究の方向性と近いのかがわからない部分もあった。しかし、今回は、自分の今後の研究にも導入できそうな技術やアイデア、他の国や調査地でも私の調査地状況と同じ点、違う点などがよくわかり非常に有意義であった。</p> <p>オランウータン保全のプレゼンテーションでは、半年以上続いた野火や、ヤシ油のプランテーションなど、生息地破壊の話題がよく挙げられていたが、アフリカでも多くの地でヤシ油栽培に適した土壌を持っていること、ボノボの生息地の99%が栽培適合地であると報告されていた。確かに調査地で村人から話を聞くと、戦前にはヤシ油のプランテーションがあったと話していたことを思い出した。現在私の調査地であるワンバ村周辺は戦争によるインフラの破壊によってプランテーションはないが、今後の脅威として大規模プランテーションによる生息地破壊の懸念を感じた。</p> <p>また、どのようにブッシュミートを食い止めるのかという話題提供では、死んだアカオザルを持った子供の写真がスクリーンに映し出された。種の保全に関心を持つ私たちにとっては、絶滅危惧種を含め、ブッシュミートが減少し、たんぱく質捕獲が家畜中心になることが最善策だと考えるが、これまで資源を森林に頼ってきた人々に対してどのように生活改革を行うのか、大きな課題であると思った。</p> <p>私の研究方法は、主に参与観察と村人からの聞き取りなのだが、サイバートラッカーの導入や、ブッシュミートでの種を特定するための(中部アフリカ地域でのブッシュミートはスモークされていることが多いので、種の特定制が難しい)遺伝子解析などが発表の中で紹介されていた。今後そういった技術を私の研究にも取り入れていくことは可能かもしれないと感じた。</p> <p>今回、初めて国際学会で口頭発表を行った。とても緊張してしまい、原稿を読みながら発表をするのがやっとであった。非英語圏の発表者でも原稿を読むことなく発表をされている方々がほとんどであった。英語力の向上とプレゼンテーション能力の向上を痛感した。初めての国際学会発表は、「うまくいった!」と言えるものではないが、国際的な舞台を自分自身で経験することで、今後の課題が見えてきた。今回感じた課題をクリアしながら、今後も国際的な舞台を視野に入れて、自分の研究を発表していきたいと前向きに感じている。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: <a href="mailto:report@wildlife-science.org">report@wildlife-science.org</a>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



↑ 学会会場 Navy Pier から見えるシカゴの摩天楼



↑ 口頭発表風景。発表者用に用意された机がとても高く、背伸びしながら発表をしている

### 6. その他 (特記事項など)

国際霊長類学会への参加によって、普段日本では得られない新たな視野や、課題をたくさん発見することができました。渡航への助成をしてくださったPWSに感謝いたします。また、口頭発表を行うにあたり、アジア・アフリカ地域研究科アフリカ地域研究専攻佐藤宏樹助教授に多くのご指導をいただきました。ありがとうございました。